

授業科目名	芸術文化・観光プロジェクト実習3	担当教員	大社 充 近藤 のぞみ 小林 瑠音 野津 直樹 池田 千恵子 河村 竜也 深澤 南土実 岡元 ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	3年第2クォーター		
講義内容	<p>芸術文化・観光プロジェクト実習2または海外実習で修得した基礎的知識・技能を踏まえて、芸術文化・観光プロジェクト実習3では、芸術分野および観光分野を関連させたプロジェクトに、企画運営スタッフの中心として参画する。これにより、芸術文化および観光の両分野に必要な知識と技能を修得し、さらに専門演習や将来の進路と結びつけ、自らの関心分野に即して新たな企画提案ができるように、専任教員が助言・指導を行う。</p> <p>すなわち、実習指導者および実習施設職員が専任教員と協力して企画する芸術文化・観光プロジェクトにその中心的運営スタッフとして参画、実習1および実習2の実習生のコーディネートを行うこともある。そこで得られた主体的な共創の経験をもとに芸術文化と観光の双方の視点から新たな企画提案を行えるように導く。</p>		
到達目標	<p>① 芸術文化および観光の両分野に必要な専門的知識と技能を身につけることができる。</p> <p>② 国際的な演劇祭の企画運営スタッフとしてリーダー的な役割を務めることができる。</p> <p>③ 自らの関心、強みを生かし、次年度に向けて芸術文化と観光の双方の視点から新たな企画を提案できる。</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前の事前学習：実習指導者および実習施設職員が専任教員と協力して企画する芸術文化・観光プロジェクトに関して概要を理解した上、実習計画を作成する。実習計画の内容については専任教員による個別面談を行い、適切なグループ分けをする。</li> <li>・当該プロジェクトについては、芸術文化分野と観光に分けて立案するが、各プロジェクトに個別に参画するだけでなく、各プロジェクト間を媒介するアイデアと、それを実現するスキルの発見および開発に最大限の関心を払う。</li> <li>・実習中：実習指導者および実習施設職員による指導を受けることで、現場の中心スタッフとしてプロジェクト運営に従事し、芸術文化と観光の双方の視点から主体的な提案を行いながら、具体的な実務を行う。その際、実習1および実習2の学生のコーディネートを行い、プロジェクトリーダーのための資質を磨く。その間、研修日誌を記録し、適宜実習指導者および専任教員から個別指導を受ける。いずれのプロジェクトにも、芸術文化分野と観光分野の双方の専任教員が指導し、実習生が各プロジェクト間を媒介するアイデアを具体化できるように導く。</li> <li>・中間時点および最終日には、芸術文化と観光の双方の視点から学生による報告会を実施し、演劇祭主催者や地域住民、他のボランティアとの意見交換会を実施する。</li> <li>・実習後：研修報告書を作成し、実習で得た経験と知識を総括し、次年度に向けて芸術文化と観光の双方の視点を生かした新たな企画提案ができるよう、専任教員による助言・指導を行う。</li> </ul>		
事前・事後学習	実習計画の作成、実習日報の記録をふまえて中間・最終報告を行う。		

テキスト	特になし
参考文献	授業内で適宜紹介する。
成績評価の基準	実習の態度 (40%)、日報 (30%)、実習報告書・プレゼン (30%)
履修上の注意 履修要件	芸術文化・観光プロジェクト実習2又は海外実習を履修済みであること。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	